

学校関係者評価報告書

令和7年6月12日

和歌山県立高等看護学院長 様

学校関係者評価委員長
氏名 杉山 文栄

和歌山県立高等看護学院学校評価規程第13条に基づき、令和6年度自己評価に対する学校関係者評価を以下の様に報告します。

学院自己評価項目	評価結果
I. 総括的評価 ① 評価基準に基づく 点検結果 (9領域65項目) ② 教育実績	① 令和5年度と比較して「社会・地域貢献」の評価が大幅に上昇していた。コロナ禍で中止していた地域住民の授業協力が再開されたことが、プラスになったと思われる。授業に参加された地域住民の意見も高評価であり、今後も地域に根付いた看護学校としての役割を意識した活動を期待したい。 ② 定員充足率100%、国家試験合格率100%、県内就業率も93.6%と高く、県立の看護師養成所としての役割が果たしている。教職員の対外的活動も学校全体で積極的に行われており、今後も個々の学習支援をお願いしたい。
II. 重点課題評価	評価結果
《重点課題Ⅰ-1》 新カリキュラム3年目の 実施・評価	新カリキュラムで重点強化した授業が実習の場面で活用できたとの学生の反応より、科目の目標を達成でき効果的であったといえる。教育方法について定期的に見直しが行われているため、新たな課題の発見に繋がっている。今後も社会の状況を考え、学生の声も聴きながらより良い学習方法を検討していただきたい。
《重点課題Ⅰ-2》 学生個々の強みに応じた 学習支援	令和5年度より教員と学生を対象に「強み」に焦点を当てた取り組みを行い、令和6年度は教員に焦点をあてて取り組まれた。しかし研修が自己研鑽としての位置付けで、勤務外で実施したため出席率が41.6%と低かった。教員自身が「強みに焦点を当てた学習支援」を行うために「強み」を理解し、意思・行動変容へのアプローチをしていくためにも、必須の研修として取り組んでいただきたい。
《重点課題Ⅲ-1》 DX社会に適応できる 教育環境の整備	令和6年度に電子教科書を導入されたが、その時点で多くの課題があると報告があった。学生側の環境が整ってもWi-Fi環境が整っていない等の課題があり、学院だけで解決できないこともあることが理解できた。令和8年度の実現を目指して今年度は、さらにDX推進に向けて課題を洗い出し、解決に向けて取り組んでいただきたい。
《重点課題Ⅲ-2》 安全・安心な環境を保證する 合理的配慮指針の確立	ガイドラインを作成し職員全員で学習会を開催するなど、安全・安心な環境を提供する取り組みを評価する。合理的配慮に関する申請や相談はなかったと報告があったが、今後も職員全員で相談しやすい環境づくりを継続していただきたい。
《重点課題Ⅲ-3》 組織における協働体制の 確立	教務事務員に業務の委譲ができたこと、教務主任を2名体制にしたこと、教務室の環境を整えたことで業務の整理・効率化に繋がったと報告があった。今後さらに、教育に専念できる環境作り・協働体制に取り組んでいただきたい。
【総括】学校運営に関して、実習施設の看護師を対象に「公開授業」の実施、入学前の学生を対象に「授業見学」の実施をする等、常に新しい取り組みをされ教員全体の教育に対する意識の高さを評価したい。教職員全員がビジョンに掲げられている看護師を育成するために、引き続き自分たちが生き活きと働いている姿を学生に見せてほしい。そして、認識されている課題をクリアできるよう、今後も教職員全員で取り組んでいただきたい。	